

Interview
インタビュー

24,999分の4

地域に立つ

市内では、地域や暮らしをより良くしようとさまざまな活動が行われています。地域に立ち活動している4人に話を聞きました。

地域福祉推進の中核



遠野市社会福祉協議会
常務理事兼事務局長
菊池 文正さん
(上郷町、65歳)

将来への「備え」 新しい関係づくりを

人口減少、高齢化が進む中、地域生活課題は増え、複雑化しています。コロナ禍で社会的孤立も増えています。将来に向かって何をすべきか、何をなすべきかを考え実行していく必要があります。次の時代に「備え」ることが重要ではないでしょうか。

社協は、市と連携し「福祉でとおのづくり」を進めています。9人の丸ごと相談員が各地区センターに配置され、相談を掘り起こしています。市の福祉の里には、相談員を後方支援する人材がいます。9人が受けた相談を解決するため、関係機関を交えた協議の場などの体制もできています。ですが、公的な制度を利用できない人もいます。制度に人を当てはめるのではなく、その人に合わせた支援が必要になっています。支えとなるネットワークには、地域力も欠かせません。みんながこのまちで暮らしてけるよう、「新しい関係づくり」「新しい支え合いづくり」を、私たちは応援します。

上早瀬自治会による下校時の見守り活動。社協の赤い羽根共同募金も各種事業に使われ、地域を支えています



遠野型コミュニティソーシャルワーカー



青世地区 丸ごと相談員
(遠野市社会福祉協議会地域福祉課)
久慈 学さん
(松崎町、40歳 岩手町出身)

困っている人を支えようという 地域の皆さんの思い、すごいです

丸ごと相談員になって2年経ちました。市内9地区センターにいる相談員は、子どもから高齢者、どんな相談にも応じて適正な機関につなぐ仕事をしています。私は遠野に来る前、盛岡の福祉施設に勤めていました。2年間活動し感じていることは、困っている人たちが地域で支えようという思いが強いこと。すごいです。皆さん、「ここが好きだから」とよく言っています。私も頑張ろうと思う瞬間です。

遠野は、都市部に比べて生活の資源、各種サービスが限られています。でもここに住む人たちは「無いなら仕方ない、無いなら自分たちでやろう」と頑張っています。青笹で言えば、地域づくり連絡協議会を中心にみんなが頑張っています。

私たち相談員は黒子。地域と関係機関をつなぐハブです。相談したい人の地域の窓口、入口として、「こうしたい、ああしたい、でもどうしよう」、そういった思いを形にしていきたいと思っています。

地区センターで町民と会話する久慈さん。町民の身近な所で、困りごとなどさまざまな相談に応じています



地域運営組織のリーダー



遠野市ふるさとづくり市民会議 委員
鱒沢地域づくり会議 会長
下鱒沢自治会長
小友 善衛さん
(宮守町鱒沢、66歳)

みんなの力を寄せて 地域づくりを

地域を見ると、人口減少と高齢化で地域を支えるマンパワーが弱くなっています。定年延長の影響も。65歳、さらには70歳まで働くような時代です。定年したら地域活動という考えも難しくなっています。集落自治会単位でやれていたことも難しくなっています。鱒沢は市内で一番人口が少なく、面積も一番狭い地区です。その分、住民の顔が見えます。小さいけれどやれるはず、小さいからこそやれるはず。オール鱒沢のような地域づくりで一番光る質の高い地域にしたい、そう考えています。若い世代が自由闊達に意見を出し、上の世代がたしなめるくらいの、そんな雰囲気を作れたらとも思っています。

市内では、地区センターを拠点に各町それぞれ工夫した地域づくりが行われています。個々を見ると、すごく参考になる取り組みがあります。オール町民、さらには市全体の視点も必要で、みんなの力を寄せて地域づくりをすることが大切だと感じています。

各町の地域運営組織代表者らが集う「ふるさとづくり市民会議」。地域づくりの情報や意見を交換する



移動販売続けて約50年の民間事業者



戸沢商店 代表取締役
戸沢 美治さん
(松崎町、66歳)

誰にでも利用してもらいたい 新しいコミュニケーションのため

綾織町の地域づくりの一環で、一人暮らし高齢者の買い物支援に当社の移動販売を活用してもらっています。町民のニーズを既存の販売ルートに盛り込んだ移動販売マップを発行してもらいました。いい取り組みをしてもらえたと感謝しています。

昔は、家族三代で買い物を楽しむ姿もありました。隣近所の人も集まり、コミュニケーションの場にもなっていたと思います。今は、お客さんの多くが高齢者で、5割くらいが一人暮らし。スーパーに行けない人や一人暮らしの人たちなど、困っている人を助けたい、その思いで続けています。過去には、自宅で体調を悪くしていた人がいました。見守りの役割でも貢献していきたいと思っています。

現在は、綾織、附馬牛、土淵、青笹の4町を中心に、3つのルートを週2回ずつ回っています。手を挙げてもらえれば立ち寄りますので、気軽に声をかけてください。

ワンちゃんを愛でる戸沢さん。お客さんは、買い物だけでなく、会話を楽しむ姿も印象的(綾織町にて)

